

令和6年度「SDGsの実現に向けた教育推進事業」取組内容

上尾市立今泉小学校

1 育成する能力

自ら考え、主体的に行動を起こす児童の育成

2 研究概要

(1) 取り組むSDGsの目標



(2) 研究主題

持続可能な未来をつくるSDGsの実現に向けた教育実践
～2030年への挑戦 自ら考え、主体的に行動を起こす今っ子の育成～

(3) 研究仮説

生活科・総合的な学習の時間を核とした教科横断的な学習を行いながら、生活科・総合的な学習の時間において、児童が探究的に学習に取り組める教材・題材の設定、単元構成とその見直し、思考ツール等の活用を行った対話的な活動を取り入れ、地域や県内外の教育人材とともに課題解決を年間通して行えば、自ら考え、主体的に行動を起こす児童の育成を行えるだろう。

3 企業・団体との連携

(1) 連携・協働した企業・団体等

- 1年生 近隣の幼稚園や保育園6団体
 - 2学生 地域の商店や教育機関（ローソン、シャルム（ケーキ屋）、スターバックスなど19の企業及び教育機関）
 - 3年生 新座市立東野小学校、上尾市役所（商工課、農政課、生涯学習課、行政経営課）
 - 4年生 ヤマト運輸株式会社、TerraCycleJapan 合同会社、ローソン、生活協同組合コープみらい、来ハトメ工業株式会社、花王、株式会社ジャパンビバレッジエコロジー、イトーヨーカ堂アリオ上尾
 - 5年生 味の素冷凍食品株式会社、セブンイレブン、アリオ上尾、ベルク、くら寿司、松本農園
 - 6年生 かりはな製作所、ニジボックス、アリオ上尾、株式会社トーモク、尾西食品株式会社、上尾市上下水道局、上尾市役所危機管理防災課、上尾市消防本部、陸上自衛隊、上尾市立大谷中学校、今泉地区避難所運営協議会、国土舘大学
- いずみ学級 公益財団法人日本環境協会、上尾市役所環境経済部環境政策課

(2) 連携・協働した主な内容

- 2年生 地域の商店
 - ・町たんけんで地域の商店をめぐり、SDGsに関連する取組をインタビューし、新聞にまとめたり、フードロスに関する取組を紹介するポスターを店頭に掲示してもらったりした。
 - ・地域にSDGsに取り組む商店があることを知り、SDGsの取組が身の回りにたくさんあることを知り、自分にできることを考えた。
- 3年生 新座市立東野小学校
 - ・上尾市の魅力を考え、他市の学校に魅力を伝えることで、地域の違いを理解するとともに上尾

市の魅力を再確認し、上尾市に住む喜びを理解できるようになった。

4年生 ヤマト運輸株式会社、Terra Cycle Japan 合同会社、株式会社ジャパンビバレッジエコロジ、イトーヨーカ堂アリオ上尾 など

- ・身の回りの企業や団体が環境問題にどのように貢献しているかを知ることから始め、環境問題を身近に感じることができるようになった。また、環境問題の解決のために、自分たちができることを考え、環境問題の解決のインフルエンサーとして、考えたことを発信した。

5年生 味の素冷凍食品株式会社 セブンイレブン アリオ上尾 スターバックス など

- ・企業が取り組んでいるフードロスの取組について企業から講義を受けることで、自分たちができることを考える。考えた取組について、地域の企業や団体に提案し、協力を依頼した。

6年生 かりはな製作所、ニジボックス、アリオ上尾、尾西食品株式会社、上尾市消防本部、陸上自衛隊、株式会社トーモク 上尾市立大谷中学校、国士舘大学など

- ・上尾市の防災力を高めるために、自分たちは何ができるかを考えた。また、自分たちが主体となって取組を進めていくために、様々な企業や団体に協力を依頼し、様々な取組を展開した。

4 研究内容

(1) はじめに

令和3年中央教育審議会答申教育課程部会における審議のまとめでは、探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することが重要であると述べられている。

また、持続可能な社会の創り手になるためには、児童、教員、保護者・地域、近隣の企業・団体と連携した上で、SDG sの諸問題について「様々な課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付けさせる教育」が推進される必要がある。本校は、令和5年度から3年間、埼玉県SDG s教育推進事業のモデル校として研究を行っている。

研究主題『持続可能な未来をつくるSDG sの実現に向けた教育実践～2030年への挑戦自ら考え、主体的に行動を起こす今っ子の育成～』に沿い、児童と保護者や地域、企業や団体との連携した取組を行い、児童の主体的な学びにつながる実践を行っている。本実践論文では、第6学年における総合的な学習の時間の防災に関する実践について紹介する。

(2) 実践内容

ア 生活科・総合的な学習の時間を核とした各教科領域との連携を明確にした年間単元配列表

学校教育目標及び研究仮説を実現するための手立てとして、「学校教育目標の実現に向けたカリキュラム・マネジメントを踏まえた授業改善を図るために、生活科・総合的な学習の時間を核とした各教科領域との連携を明確にした年間単元配列表を作成する」ことを行った。

第六学年の国語科「デジタル機器と私たち」は、提案文の構成を考え、実際に提案を行う単元である。総合的な学習の時間で児童が行いたい活動に協力をいただくため、提案文を作成し、企業や団体に直接プレゼンテーションの交渉を行った。承諾を得た企業や団体を相手に、国語の授業で作成した提案文を基にプレゼンテーションを行い、協力を依頼した。

【表1】〈年間単元配列表〉
総合的な学習の時間へ生かしたい他教科の資質・能力との関連を示した。



【株式会社 NIJIBOX】
広告デザイン企業
配色や文字、デザインについて、指導・助言を依頼。



イ 教育人材の発掘・活用

(ア) 企業・団体との連携

児童は上尾市の防災意識向上のための課題と解決方法を考え、プロジェクトごとにチームで活動している。

ポスターチームは、内閣府主催の防災ポスターコンクールに出展し、入賞以上を収めることで自分たちの思いやポスターの意図を伝えやすくなると考えた。児童は、株式会社ニジボックス様にアポイントメントを取り、実際に国語科で作成した提案文を活用して、プレゼンテーションを行った。その際、身の回りにある広告がどのように作られているか質問したり、実際に様々な企業の広告をデザインしている方々に自分たちの活動の意図を説明したりしながら、ポスターをデザインする際のポイント等を指導・助言いただけるよう、協力を依頼した。配色や字のバランスや意図を考えること、ポスターを見てもらいたい対象を決めることが重要であると教えていただいた。その指導・助言を生かした作品が右の2点である。



【内閣府防災ポスターコンクール】

・近隣の施設や小中学校に掲示

(イ) 近隣小中学校、保護者や地域との連携

児童も避難所運営に関わるべきではないかと考えたチームは、社会科の授業において、自衛隊が被災地で活躍している様子を学習したことで、陸上自衛隊大宮駐屯地の自衛隊の方々にアポイントメントをとり、実際の被災地の活動の様子や、避難所の様子について講義を受けることができた。

また、実際の避難所運営の関わり方として、2年前に本校に設置されたマンホールトイレの設置方法を知っている人が校内で限りなく少ないことを知り、学校の様子を把握している6年生が設置することができれば、避難所開設・運営を行う際に割く人的リソースを他に回せるのではないかと考えた。そこで、上尾市上下水道課と上尾市防災士協会の協力を得て、マンホールトイレの設置方法を学んだ。その後、防災の輪を広げるためには、在校生や保護者、地域の方々に伝えていく必要があると気づき、保護者や地域の方々を招いて設置方法の伝達を行った。地域の防災意識の向上に貢献し、地域のつながりが大切であると気付くことができた。



【陸上自衛隊大宮駐屯地との連携】

- ・能登半島地震被災地の状況
 - ・子供たちにできる避難所での活動
- ※防災白書に基づいた説明



【近隣中学校との連携】

昨年度の6年生からマンホールトイレの設置方法を詳しく聴くために、中学生を講師として招いた。



【保護者や地域の方との連携】

- ・マンホールトイレの設置方法の伝達
- ・伝達におけるフィードバック
- ・今後の活動についての要望を受ける。

児童防災に関する活動が、地域の自主防災組織や行政にも認知されたことで、2月25日(火)に上尾市と自主防災組織が、本校の児童と合同で防災に関する訓練を地域学校保健委員

会で開催する。また、国士舘大学の防災・救急救助総合研究所研究員の吉川先生も招き、能登半島地震など様々な被災地の被災時の状況や避難所運営、避難所生活など実際の状況も交えて指導をいただくことになった。

ウ 児童教職員の実態調査と教育課程の評価改善

(ア) 授業改善・教材開発

- ① 教科等横断的な指導を行う上での視点の共有
- ② 思考ツールを活用することによる、児童の思考の見える化

学級で課題設定を行う際には、思考ツール「ピラミッドチャート」を活用して話し合い、精選した。グループで相談しながら1つずつ付箋を動かすことをルールにしたことで、話し合いが活発になった。話し合いが活発になることで、しっかりとした理由をもつことができ、その結果、「知らせたいこと」を決定できた。

4年生「上尾市SDGsインフルエンサーになろう」

思考の整理

話し合い

③ 企業や団体との連携のデータベース化

Tr 学年・学級	Tr 企業・団体名	ステータス	授業の形式	日付	Tr 時間	Tr 場所
6年1組	トーモク株式会社	埼玉県S	相互タイプ	2024/09/11	5～6時間目	教室
4年	東ハトメ工業株式会社	埼玉県県	学年講話	2024/09/02	5校時	体育館
4年	生活協同組合コープみらい	埼玉県県	学級講話	2024/09/03	2～4時間目	教室
4年	花王グループカスタマーマーケティング	埼玉県県	学年講話	2024/09/17	5～6時間目	体育館
4年	ヤマト運輸株式会社	独自開発	学年講話	2024/09/18	5時間目	体育館
4年	TerraCycle Japan合同会社	独自開発	学年講話	2024/09/24	2～4時間目	体育館
4年	株式会社ジャパンビレッジエコロ	埼玉県県	学年講話	2024/09/25	5～6時間目	体育館
4年	イトーヨーカドーアリオ上尾店	埼玉県県	施設見学	2024/09/11	10:30～11:30	アリオ上尾
3年	上尾市商工課	独自開発	学級講話	2024/09/03	2～4時間目	各学級
3年	上尾市農政課	独自開発	学年講話	2024/09/04	5時間目	体育館
3年	上尾市生涯学習課	独自開発	学年講話	2024/09/05	5時間目	体育館
3年	上尾市行政経営課来校	独自開発	学年講話	2024/09/06	5時間目	体育館
いずみ学級	上尾市環境経済部環境政策課	独自開発	学級講話	2024/09/26	5時間目	教室

企業や団体との連携をいつ、どのタイミングで、どのように行ったかをデータベース化することによって、次年度にも活用できるようにする。

- ① 行政による出前授業
 - ② 埼玉県の環境応援隊
 - ③ 埼玉県SDGsパートナー
 - ④ 独自開発
- の3つの種類分けを行った。

企業や団体の連携のハードル

(イ) 年間単元配列表の修正

- ① 各学期に年間単元配列表の加筆修正
- ② 学年ごとの取組をデータベース化

各教科と総合的な学習の時間(生活科)を関連付けた実践事例集を作成し、他教科で学んだことを総合的な学習の時間(生活科)で指導するイメージを共有できるようにした。また、思考ツールの活用場面や、実際に児童が思考ツールに記入したものを載せることで、誰でも思考ツールの活用方法や児童への児童助言のイメージをもてるようにした。他にも、企業や団体との連携の例や児童の変容の様子などをまとめた。

目指す児童像の実現

情報共有
指導の共有

市内外へ発信可能

(ウ) 児童、教員、保護者への意識調査

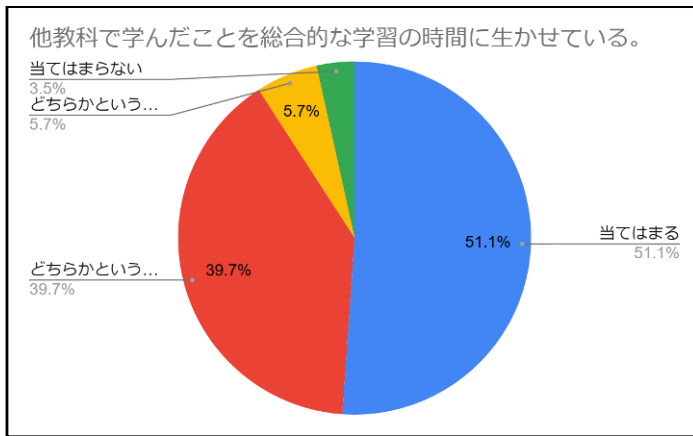
4年生取組紹介 「上尾市SDGsインフルエンサーになろう」
https://docs.google.com/presentation/d/17cyoHrDRQb0o7QN-DBYhY_c0AGakFbQsy20kkBUAu1A/edit#slide=id.p1

- ① 児童への意識調査（年3回）
- ② 教員の意識調査（年2回）
- ③ 保護者の意識調査（年1回）

5 実践における成果

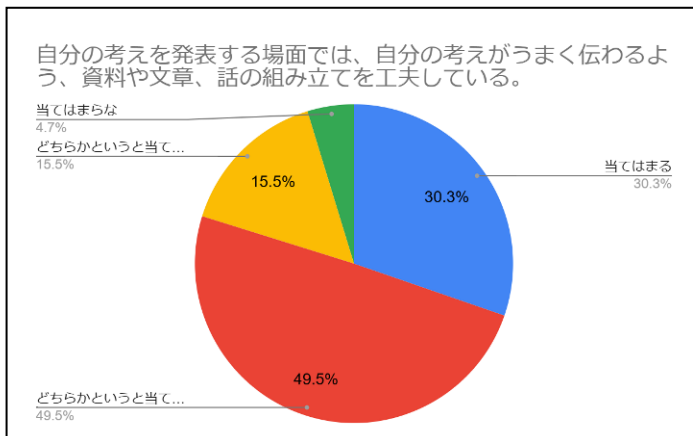
(1) 上尾市学力調査における変容【学力向上の側面】

生活科・総合的な学習の時間と国語を結び付けることで学習の関連に気付かせることができた。児童は、企業・団体との連携を目指すことで文章を書くこと、話を聞いたり伝えたりすることなど、国語を学ぶ意味を、実感を伴って理解できた。昨年度の6年生は、こうした学習を行うことで、上尾市学力調査において、文章を書く力が全国平均と同等か、それ以上の成果を収めた。特に、自分の立場を明確にして、「予想される反論と、それに対する自分の考えを具体的に書く」問題では、上尾市の正答率が46%、全国が50%と半数以下であったことに対して、本校の6年生は56%と高く、さらに、企業・団体にプレゼンや交渉を多く行った学級は66%と、その正答率がぐんと高まった。相手意識をもって国語の学習に取り組み、意見文や提案文を書いた成果が学力調査で測れたと捉えている。



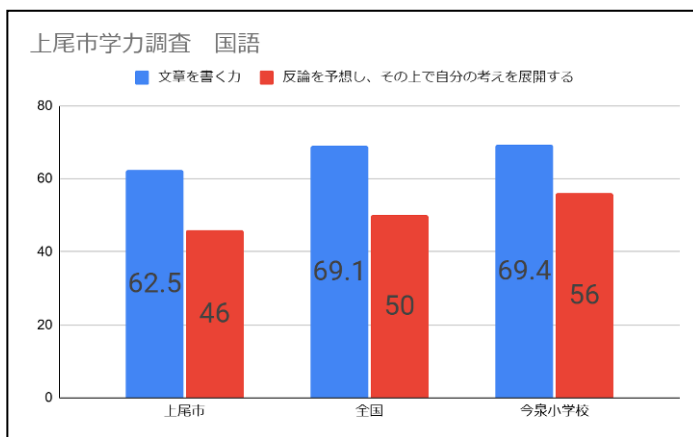
〈令和6年11月 対象3～6年生〉

年間単元配列表を用いた指導を行った結果、児童が教科や領域、特に総合的な学習の時間との関連に気付き、学習したことを生かしているか、活用できているか、児童の実態を把握するための問い。
6月の調査では肯定的に捉えた児童は89.3%、11月では90.8%と1.5%向上が見られた。
教員の実態調査では、94.4%の教員が年間単元配列表を意識した指導を行うことができ、指導によって課題に取り組む姿に変化があったと全ての教員が回答している。



〈令和6年11月 対象3～6年生〉

本校が令和2～4年度まで国語科の研究を行ってきた財産を生かすために、総合的な学習の時間と国語科の関連を強く意識した年間単元配列表を作成した。その成果を問うため、全国学力・学習状況調査の質問紙項目32番と同様の問いを行った。質問紙項目32番に対する全国平均が62.8%、埼玉県68.4%という結果に対し、本校では6月に82.5%、11月に79.8%と高く、企業や団体との連携を行うことによって相手意識をもって学習することができ、書くことや話すことに対する学習意欲が高まっていることがわかる。



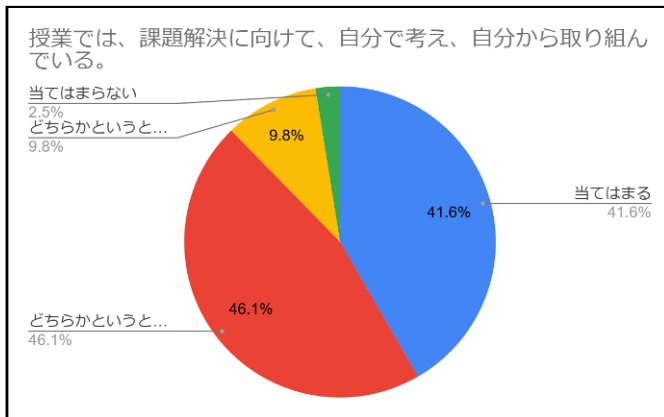
〈令和5年12月 6年生〉

上記の学習意欲の高まりが、学力向上につながったことを裏付ける根拠として、上尾市学力調査における「文章を書く力」の向上を挙げる。
「文章を書く力」全体を表す数値として、上尾市が62.5%、全国69.1%に対し、今泉小学校は69.4%と成果が出ていると言える。また、「相手の反論を予想し、その上で自分の考えを展開する」問題では、上尾市が46%、全国50%と半数以下に対し、今泉小学校は56%と高く、企業や団体にプレゼンを多く行った学級は66%と正答率はさらに高くなった。相手意識、必要感をもって学習に取り組み、意見文や提案文を作成したり、プレゼンを行ったりした成果と言える。

(2) 児童の主体的に学びに向かう姿勢を計る意識調査の変容

5月に行った全国学力・学習状況調査における質問紙項目33番に基づいた意識調査を行い、その変容を調べたところ「授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる」児童が全校で増加している。

〈令和6年11月 対象3～6年生〉



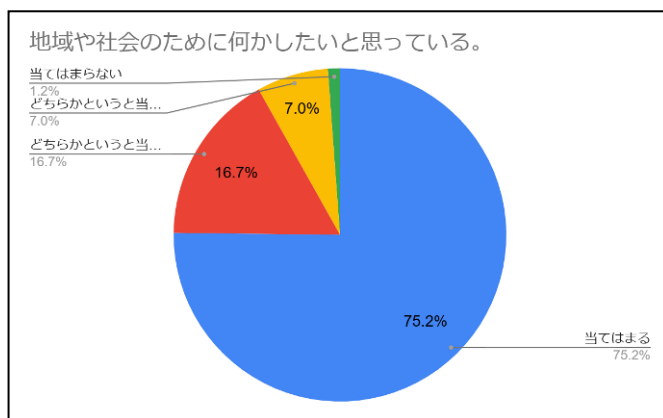
児童の主体性を図る調査項目では、昨年度より3ポイントの向上が見られた。
 中学年は85.0%、高学年では90.4%と、総合的な学習の時間で探究的な学習を行ってきた学年の方が主体的に学習に取り組んでいると言え、総合的な学習の時間の学習での積み重ねが学習に肯定的な影響を与えることがわかる。
 また、6年生のように多くの企業や団体との連携を行った学年では、2年連続で10ポイント以上の向上があり、各教科領域と総合的な学習の時間の関連付けにより、児童が様々な課題をより自分事として捉え、自分から学習に取り組むことができた。

年度	令和5年度2月	令和6年度6月	同 11月	変化
R6 中学年		85.3%	85.0%	-0.3ポイント
R6 高学年		87.8%	90.4%	+2.6ポイント
R6 学校全体	84.7%	86.4%	87.7%	+3.0ポイント

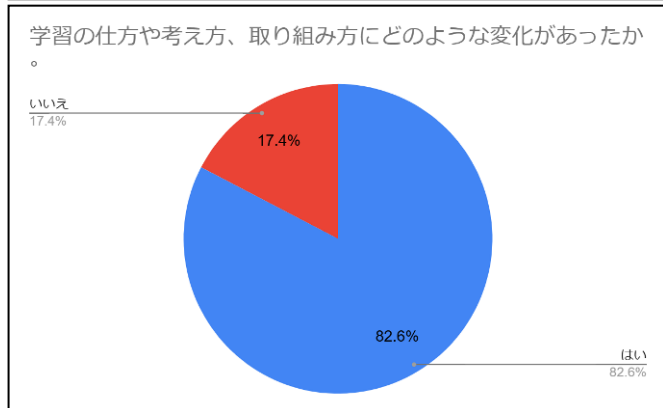
【図1 学校全体の変容】

年度	4月	2回目	変化
R6 6年生	79.8%	3月 90.6%	+10.8ポイント
R6 6年生	79.7%	11月 91.3%	+12.6ポイント
R6全国学力・学習状況調査全国平均	78.8%		

【図2 6年生の変容】



〈令和6年11月 3年生～6年生〉



総合的な学習の時間では、上尾市を住みよいまちにするというテーマで4年間学習を行う。それぞれにテーマがあるが、毎年同じことをするのはなく、それぞれの学年がテーマに即した上尾市の課題を考え、課題解決に向けて、学習を行っていく。
 昨年度から、保護者や地域の方、企業や団体との連携を行うことによって、児童はより広い視点、新しい活動の可能性、自らが上尾市を変えることができるかもしれないという意欲をもって学習に臨むことができた。
 また、実際に様々な企業や団体との連携を行うことによって成果を実感する機会も増えた。成果物を作成することを総合的な学習の時間のゴールにするのではなく、作った上でどうするのか、作ったものは本当に成果として出せるものなのか、地域を巻き込むためにはどうしたらよいのかなど、相手意識をもって学習に取り組んだり、地域とのつながりをより意識して活動を行ったりすることができた。
 児童の意識調査においても、地域社会に貢献したいという児童は、91.9%と非常に多い。また、企業や団体との連携を行うことによって、学習の仕方や考え方、取り組み方に変化が起きたと感じた児童は、82.6%だった。
 学習に企業や団体との連携を行うことは、児童の学びに肯定的な影響を与えることがわかった。

(3) 外部からの評価

総合的な学習の時間に取り組み、作成した成果物は、児童自らの意思で、それらが社会や地域でどのように評価されるかを知ったり、その後の活動に生かしたりするために積極的にコンクール等に参加したり、保護者や地域の方へ意見を求めたりした。

ぼうさい甲子園の全国2位という評価や、新聞記事に取組が紹介されたことをとおして、自身の取組の価値を理解し、更なる意欲向上につながった。また、ぼうさい甲子園の表彰式に参加することで各地の優れた取組を知り、自分たちに足りない“地域との深い関わりをもつこと”と“取組を継続すること”という新しい課題を発見することができた。

ぼうさい甲子園での評価や児童の防災に関する取組を郊外に発信することによって今泉地区避難所運営協議会や上尾市役所にも本校の取組にご協力をいただけることになった。また、国士舘大学の防災・救急救助総合研究所に所属する吉川先生を招いた地域学校保健委員会を開催し、児童、保護者や地域の方、近隣の中学校を巻き込んだ地域の防災力向上のための取組を2月25日に行うことになった。

また、本校の学校課題研究が今年度は埼玉総合教育センターの「埼玉教育」における教育実践の紹介や教弘会報埼玉の研究・実践成果報告書の執筆依頼を受けるなど、教育関係団体にも一定の評価を得ることができた。

ア ぼうさい甲子園への参加

令和6年度小学校の部 優秀賞【全国2位】 2年連続優秀賞を獲得した。



〈12月21日(土) ぼうさい甲子園〉

兵庫県公館にて『ぼうさい甲子園』の表彰式及び取組発表会に参加し、今泉小学校第6学年の総合的な学習の時間の防災に関する活動を発表した。他地域の優れた学校や団体の防災教育に関する取組を知り、自分たちの活動の成果と課題を考えるよい機会にできた。また、来年度の6年生への引継ぎ資料を作る際の材料として活用することができた。

〈プレゼン資料の一部〉



与えられた5分間の中で、6年生の防災に関する取組を、資料を基にして説明した。自分たちの活動の中で、特に紹介したいことや頑張ったことを伝える際には、抑揚を意識したり間を置いたりするなど伝えたいことと伝え方を意識し、プレゼンを行うことができた。



イ 令和6年度年防火ポスターコンクール 入賞 【ニジボックスの指導を受けた児童の入選】

ウ 毎日新聞社による記事掲載令和6年12月3日(火)朝刊

同社 令和7年1月21日(火)朝刊

エ NHK総合「明日を守るナビ」での取組紹介 令和6年12月15日(日)に放送

オ 埼玉教育の教育実践に本校の課題研究と関連する防災教育について執筆 令和7年2月発行

カ 教弘会報埼玉No. 275に研究・実践成果報告書に本校課題研究の取組について執筆

(4) 連携した企業や団体の声

〈株式会社ニジボックス クリエイティブ室室長 上田様〉



普段クライアントに向けてデザインのプレゼンテーションをしたり、トークイベントなどでデザイン関係の登壇を行ったりするメンバーですが、子どもたちを相手に行うことはあまりなく、私たちにとってもとても貴重な経験になりました。

授業の後には、防災ポスターを実際に作るチームから、パソコンを使ってプレゼンテーションをしてもらいました。今の時点でどんなポスターを作ろうとしているのか、ポスターコンクールで入賞するとどんな効果があるのかなどといったわかりやすいプレゼンテーションを聞くことができ、子どもたちの成長スピードや実践する力に驚かされました。

今泉小学校の子どもたちが防災ポスター制作に全力で取り組み、その後の学校生活やそれ以外でも活かせるようなヒントを手に入れてくれたら幸いです。

特別授業としてニジボックス様には、「色」「文字」「イラスト」「主役を引き立たせる」の4つの視点からデザインのテクニックについてご指導をいただきました。

※株式会社ニジボックス様の社外広報より抜粋

※ 株式会社ニジボックス様は、出前授業などを本来受け付けている企業様ではありません。今回、特別にご指導いただきました。ご厚意でご協力いただいた企業ですので、株式会社ニジボックス様への問い合わせ等をご遠慮ください。

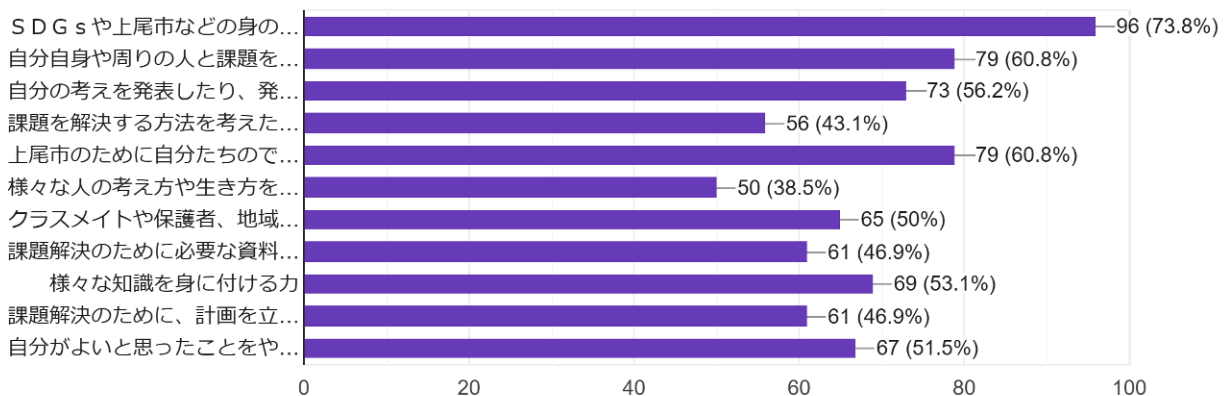
(5) 令和7年度に向けた課題

総合的な学習の時間の学習において、実社会で活用できる能力の例として「文部科学省教育課程部会(平成28年1月)総合的な学習の時間ワーキンググループ資料7」には、①学習方法、②自分自身、③他者や社会との関わり観点から合計12個の能力が例示されている。

今回の企業や団体との連携を行うことによって、児童が実際にどのように感じているか実態を把握したところ以下のような結果となった。前提として、企業や団体との連携を行うことによって、学習の仕方や考え方、取り組み方に変化があったと回答した高学年の児童(肯定的に捉えている82.5%の児童)に総合的な学習の時間でどのような力が身に付けられると思うか調査した。

総合的な学習の時間でどのような力を身に付けることができそう、できると思いますか。

130件の回答



SDGsや上尾市などの身の回りの社会的な課題を見つける力(課題設定力) 73.8%

自分自身や周りの人と課題を解決する力 60.8%

自分の考えを发表或し、発信したりする力(表現力) 56.2%

課題を解決する方法を考えたり、よりよい文章や発表の仕方考えたりする力(思考分析力) 43.1%

上尾市のために自分たちのできることをしようとする力(意志決定力) 60.8%

様々な人の考え方や生き方を尊重する力（他者理解力） 38.5%

クラスメイトや保護者、地域の人や企業や団体の方と協力して物事に取り組む力（協働力・社会参画力） 50%

課題解決のために必要な資料やデータを集めたり、実験を行ったりする力（情報収集力） 46.9%

様々な知識を身に付ける力 53.1%

課題解決のために、計画を立てたり計画の実行を順序よく行ったりする力（計画実行力） 46.9%

自分がよいと思ったことをやり抜こうとする力（意志決定力） 51.5%

児童の意識としては、SDGsや上尾市などの身の回りの社会的な課題を見つけること、課題設定力が最も身に付けることができると考えている。また、自分自身や周りの人と課題を解決する力や、上尾市のためにできることをしようとする力など、周囲と協働的に課題解決を行おうとすることや地域のために何かしようと考えていることがわかる。一方で、様々な人の考え方や生き方を尊重する力（他者理解力）に関しては、38.5%と最も低く、協働的に学ぼうとしている一方、まだ児童の思いが中心になり、企業や団体と連携を行うことが上尾市の社会的な課題を解決することにはならない。連携した上で、どのように地域、社会に発信していくか交流し、自分たちの活動を広めていくかということに気付き始めている。

また、総合的な学習の時間の年間指導計画は1年ごとにテーマが異なるため、企業や団体と連携し、自分たちに何ができかが見え始めてきた段階で次の学年に上がり、次のテーマで学習を始めることになってしまっている。実際に、児童からは次の年も同じテーマでやりたいという意見も出ている。

企業や団体と連携を行うことによって見えてきた課題を児童自身も感じているため、自分たちが調べてきた情報や自分たちが行いたい活動と保護者や地域、企業や団体のニーズと合っているか精査する必要があることに気付き、計画の立て方や学習の取り組み方がこれまでのやり方では間に合わないことを児童や教員が実感として感じている。

3学期の総合的な学習の時間の学習として、児童からは保護者や地域への発信を行っていくとともに、次の学年に自分たちの取組を引き継いでもらうための資料作りや、情報提供の時間を設けたいという願いも出ており、毎年、ゼロから課題設定を行っていたものを昨年度の児童の取組をブラッシュアップしていくことで、よりよい社会に変えていくことはできないかそれぞれの学年で検討を始めている。

中間発表で挙げた学校課題研究についての課題は、以下の5点である。

研究の成果・課題 学校内外のリソース活用

①カリキュラム・マネジメント

- 企業・団体との連携は、交渉や実践など教員の負担も増える。
- 新規開拓は連携するまでに時間がかかる。
- もっと深めたいと思う児童もいる。
- テーマに対する教員の理解と学習の見通しが必要。
- 総合的な学習の時間への理解が必要。

もっと深めたいという児童の願いについては、年間指導計画を検討している段階である。

他の4点は、成果でも挙げたように中間発表で参加者に紹介した学年の取組を中間発表までの半年間の記録から年間を通した取組の実践事例集として仕上げることで、毎年の指導上の手引書として活用することによって課題の改善を図っている。ま

た、年間単元配列表を活用する際にも抽象的な表現の配列表の羅列からより具体的な指導や指導の経過、最終的に行きつく姿を確認することができるようにしている。そのため、教員の負担軽減や総合的な学習の時間への理解やハードルを下げることで、教員の指導力向上の一端を担うことができると考えている。

第5学年 総合的な学習の時間
～なくそうフードロス 上尾市から埼玉へ 自分たちにできること～

上尾から発信！ We can change the world.

上尾市立今泉小学校
第5学年

4年生取組紹介
「上尾市SDGsインフルエンサーになろう」
上尾市住みよいまちプロジェクトパート2

上尾市立今泉小学校
第4学年